

2022年度 第3四半期 決算概要

2023年2月9日
沖電気工業株式会社

2022年度 3Q累計 決算の概要

- 半導体等部材調達難に伴う生産影響あったものの前年比増収。
- 営業利益は一過性要因を除いた実質ベースでは前年並み。
- 為替影響により営業外為替(人民元建資産評価替)は前年比悪化。
- 構造改革に伴う特別損失は減少。
- 今期業績予想修正により税金等は前年比悪化。

(単位：億円)	22年度 実績	21年度 実績	前年比
売上高	2,566	2,464	+102
営業損益	△48	△1	△47
経常損益	△79	1	△80
(親会社株主に帰属する) 四半期純損益	△116	△62	△54
USD平均レート(円)	136.5	111.1	+25.4
EUR平均レート(円)	140.6	130.6	+10.0

- 第3四半期決算の概要です。第3四半期は売上高2,566億円、営業損失が48億円、四半期純損失が116億円となりました。
- 売上高は、為替の影響もあり、前期比約100億円の増収でしたが、営業利益は前年比で△47億円となりました。昨年度は第3四半期に引当金の戻りを計上したことを考慮すると、実質的には若干の減益にとどまっています。
- 経常利益は△79億円。営業利益のマイナスと、昨年はプラスで着地した営業外損失が為替の影響によりマイナスとなったことから、前年比では△80億円での着地となりました。
- 特別損失は、構造改革が峠を越えたことから、前年比で大きく改善しましたが、法人税等調整額がかさんだため、四半期純損失は116億円となりました。
- 為替レートはUSドル136.5円、ユーロは140.6円です。

2022年度 3Q累計 セグメント別売上高/営業利益

(単位：億円)

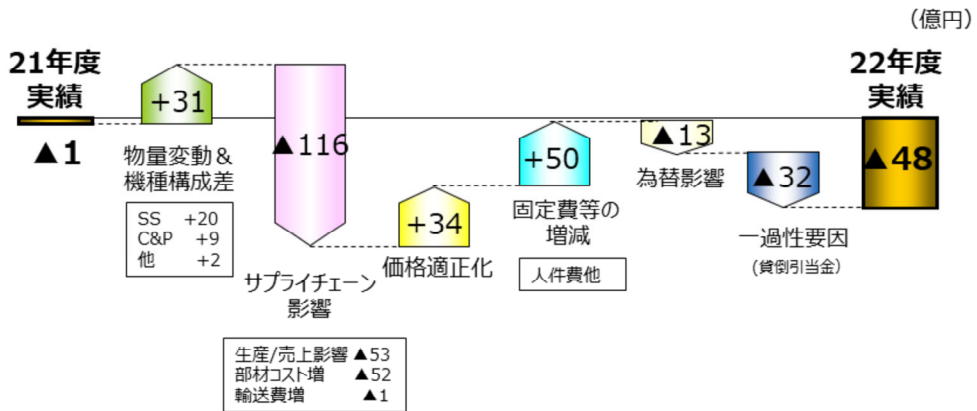
売上高	22年度 実績	21年度 実績	前年比
ソリューション システム	1,192	1,076	+116
コンポーネント & プラットフォーム	1,371	1,385	△14
その他	4	3	+1
合計	2,566	2,464	+102

営業利益	22年度 実績	21年度 実績	前年比
ソリューション システム	3	15	△12
コンポーネント & プラットフォーム	△11	34	△45
その他	4	2	+2
消去・本社費	△43	△52	+9
合計	△48	△1	△47

- セグメントごとの売上高と営業利益です。
- 売上高ですが、ソリューションシステムは前年比116億円増収の1,192億円。コンポーネント&プラットフォームは、前年比14億円減収の1,371億円となりました。コンポーネント&プラットフォームは調達影響もあり、全体では減収とはなりましたが、2Q、3Qと単独で比較しますと、増収傾向となっています。
- 続いて、営業利益です。ソリューションシステムは3億円。前年比では12億円の減少。コンポーネント&プラットフォームの営業利益は、先ほどの一過性要因と為替影響を除いた実質ベースではほぼ前年並みとなっています。

2022年度 3Q累計 営業利益の変動要因

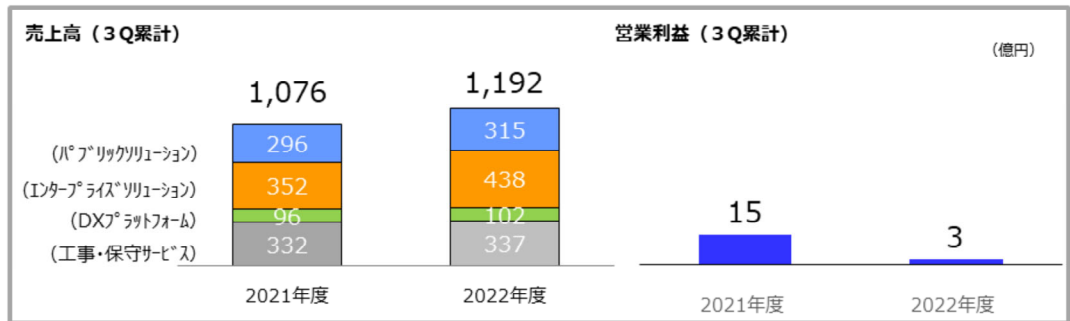
- サプライチェーン影響は3Qも継続。
部材調達難による前年からの期ズレ案件の取り込みや価格適正化は進捗。
設計変更による代替部品対応も進捗。
- 物量増あるものの、ソフト開発案件の失敗コストによるマイナスが発生。
- 構造改革や費用対策により固定費は減少。
- 前年にあった一過性収益による反動減、円安による為替影響はマイナス。



- 第3四半期時点での営業利益のエレベーターチャートです。
- サプライチェーンの影響は、116億円のマイナスとなっています。主な内訳は、記載のとおりです。セグメントを分けると、ソリューションシステムが25億円、コンポーネント&プラットフォームで91億円です。
- 物量変動&機種構成差は、マイナス要因もあり+31億円にとどまっています。
- 価格適正化は、+34億円と着実に進捗しています。
- 固定費は、主にコンポーネント&プラットフォームにおける海外子会社の構造改革効果によるものです。
- 為替は円安によるコスト増影響が大きく、全体では△13億円となっています。

ソリューションシステム事業 概況

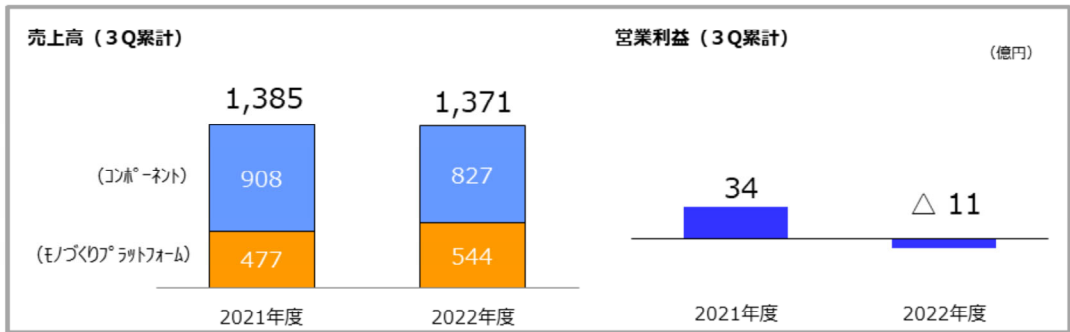
- すべての事業領域でほぼ前年比増収。
- 営業利益はエンタープライズでのソフト開発案件の失敗コストや為替によるマイナス影響もあり、前年比減益。
- DX領域の売上は235億円(前年同期 201億円)。



- ソリューションシステムの事業概況です。
- 売上高は、ほぼ全ての事業領域で増収となりました。ただし、増収幅ほど利益が伸びなかった要因は、ソフト開発案件の失敗コストおよび為替影響によるものです。
- DX領域の売上高は235億円となり、前年と比べると34億円増となりました。

コンポーネント&プラットフォーム事業 概況

- モノづくりプラットフォームはFA/半導体製造装置向け売上の好調が続く。コンポーネントは自動機事業の半導体等部材不足による生産減により減収。情報機器事業の売上は為替影響もあり増収。
- 一過性要因および為替影響を除いて、営業利益ほぼ前年並み。



- コンポーネント&プラットフォームの事業概況です。
- モノづくりプラットフォーム事業の売上高は、FA/半導体製造装置向け事業が引き続き好調なことから、前年比67億円の増収となりました。一方で、コンポーネント事業全体では、為替によるプラスがあるものの、生産減の影響が大きく、全体では減収となりました。
- 営業利益は、モノづくりプラットフォームにおける増収の効果と、構造改革の効果で生産減影響をカバーし、引当金の増減を除いた実質ベースではほぼ前年並みです。

2022年度 第3四半期 B/Sの概要

- サプライチェーン影響による棚卸増により借入金が増加。
- 自己資本比率は4.7ポイント減少。

(単位：億円)	22年 12月	22年 3月	前年度末比
流動資産	2,225	2,118	+107
固定資産	1,591	1,573	+18
資産の部	3,816	3,692	+124
流動負債	1,972	1,580	+392
固定負債	909	1,036	△127
負債の部	2,882	2,615	+267
自己資本	932	1,074	△142
その他	2	2	±0
純資産	934	1,076	△142
負債及び純資産合計	3,816	3,692	+124
自己資本比率(%)	24.4	29.1	△4.7
DEレシオ(倍)	1.3	0.8	+0.5

- 流動資産合計では+107億円ですが、棚卸は期首と比較しますと約280億円増加し、その結果借入残高も約320億円増加しています。
- 棚卸については、3月末にかけてゆっくりと減少していくものの、その減少のスピードが加速するのは23年度からとなる見込みです。
- 総資産は、前期末から124億円増加の3,816億円。
- 自己資本は、142億円減少の932億円となりました。
- 結果、自己資本比率は24.4%、D/Eレシオは1.3倍となっています。

2022年度 第3四半期 キャッシュフローの概要

- 営業キャッシュフローもサプライチェーン影響による棚卸増により前年比悪化。

(単位：億円)	22年度 実績	21年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	△144	△3	△141
II 投資キャッシュフロー	△136	△151	+15
フリー・キャッシュフロー(I + II)	△280	△154	△126
III 財務キャッシュフロー	262	35	+227
現金および現金同等物の残高	328	304	+24
固定資産取得額	122	148	△26
減価償却費	90	94	△4

- フリー・キャッシュフローは△280億円となりました。厳しい環境ではありますが、必要な投資は選別して並行して行っています。なお、現金同等物は328億円と、必要な手元資金は確保しています。

2022年度 通期業績予想の修正

- 直近の業績動向等を踏まえ、2022年5月11日公表の業績予想を下方修正。
- なお配当予想についても、1株当たり年間20円に修正（期初公表値30円）。

(単位：億円)		22年度 今回予想	22年度 前回予想	前回比	21年度 実績	前年比
ソリューション システム	売上高	1,830	2,100	△270	1,626	+204
	営業利益	95	140	△45	95	±0
コンポーネント & プラットフォーム	売上高	1,890	2,150	△260	1,890	±0
	営業利益	0	20	△20	35	△35
その他	売上高	0	0	±0	4	△4
	営業利益	0	0	±0	3	△3
消去・本社費	営業利益	△65	△70	+5	△75	+10
連結合計	売上高	3,720	4,250	△530	3,521	+199
	営業利益	30	90	△60	59	△29
	経常利益	5	80	△75	77	△72
	当期純利益	△30	30	△60	21	△51

前提為替レート 4Q 前回
 USD 135円 115円
 EUR 143円 130円

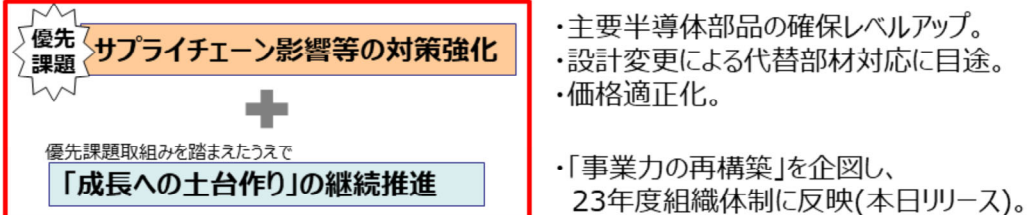
- 本日修正の発表をしました通期業績の予想について説明いたします。
- 連結合計で売上高3,720億円、営業利益が30億円、当期純利益を△30億円としております。合わせて、配当予想も20円に減配とさせていただきます。

通期業績予想についての説明

■ 事業環境

- ✓ 市場 OKIの主要ビジネス領域の投資は比較的堅調に推移。
(デジタル化、自動機、EMS等)
- ✓ 調達 一部(市場流通品等)で緩やかな改善は見られたものの大枠は不変。
原材料費高騰も継続。
- ✓ 為替 円安で売上は高上げとなるが、営業利益ではマイナス影響。
元安ドル高の影響で営業外費用が大幅悪化(4億→△22億)。

■ OKIの取り組み

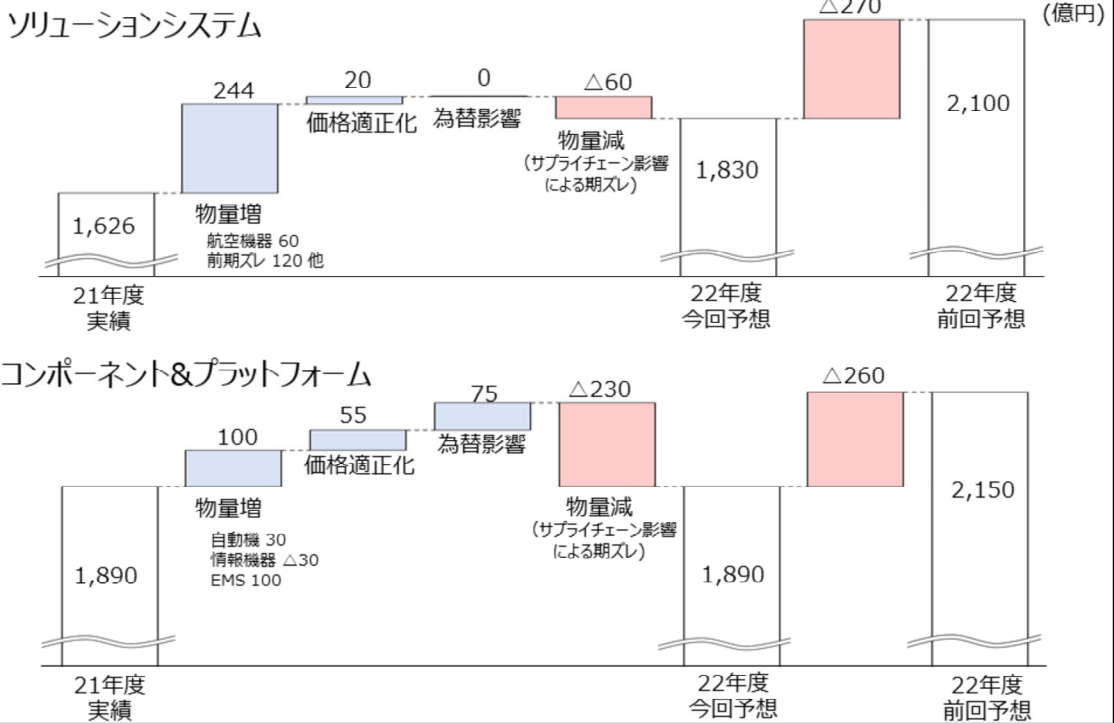


■ 通期決算概要

- ✓ 売上は前年比約200億円の増収、前回予想比約530億の減収。
- ✓ 営業利益はサプライチェーン影響、失敗コスト、為替影響により前回予想比減益。
- ✓ 棚卸増も3Q決算がピーク。23年度上期より本格的に売掛→回収となる見込。

- 現在の事業環境と全体感の説明です。
- 現在の事業環境は、部門により若干の強弱はありますが、OKIの主要なビジネス領域の投資環境は比較的堅調で、納期の遅延は依然あるものの、大きな転注、あるいはキャンセルはありません。
- 一方、改善を期待していた調達環境は、残念ながら大枠では変わらず、原材料費の値上げも含めて考えると、厳しい環境が継続しています。また、今期はドルに対して急激な円安、またドルに対して同じく元安の進行もあったため、営業利益、営業外損失とダブルでマイナス影響を受けています。
- そのような状況下、今年度はサプライチェーン影響の対策を最優先課題として取り組み、現時点で取り得る施策は全て実行致しました。また、優先課題の取り組みを踏まえたうえで、成長への土台作りを継続推進することから、その過程で出てきた課題とも真摯に向き合い、次期中計の施策に織り込むべきものはワーキングベースで検討し、着手できるものについては実行に移しています。
- 本日、来年度に向けた組織改正をリリースしておりますが、こちらも後ほどご覧いただければ幸いです。
- そのような中での22年度決算ですが、売上高は前年対比で増収見込みではありますが、ご説明した各種要因と増益効果が相殺され、実質ベースでの利益は微増にとどまる見込みです。また、サプライチェーン対策の効果は、お客様との納期の関係もあり、本格的に回収となるのは23年度にずれ込む見込みです。

通期業績予想 売上高



- 11ページは、売上高に関わる二つのセグメント各々の前年比、計画比の推移を表したエレベーターチャートです。
- ソリューションシステムは、前期の期ずれ案件の着実な取込み、また、買収した航空機器事業による売上のかさ上げもあり、200億円の増収を実現見込みです。なお、買収した航空機器事業は、PMIに注力の結果、お陰様で初年度から黒字化を実現できる見通しです。ただし、サプライチェーンの改善やDX投資の本格的な予算化等を積極的に織り込み、21年度対比では、V字回復型の計画としたために、計画比では大きくマイナスとなっています。
- コンポーネント&プラットフォームは、好調なEMS事業を中心に、売上を前年比で伸ばしましたが、自動機事業が今期、新たに発生したサプライチェーン影響を大きく受けたため、全体での売上高はほぼ前年並み。計画対比では、サプライチェーン影響の230億円分がほぼ計画との未達幅となっています。
- 価格適正化による積み上げは、計画を上回って実現しましたが、会社全体として原材料の値上げを全て打ち返すには至りませんでした。

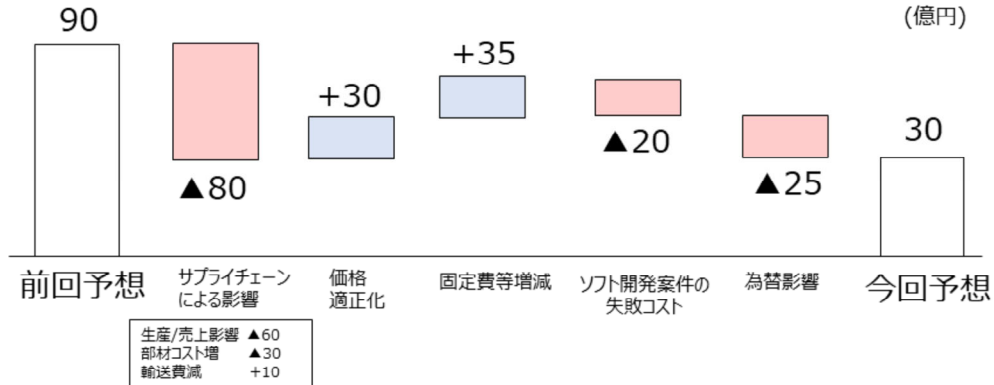
通期業績予想 営業利益

営業利益：前回予想からの主な変化

- ✓ 主要半導体の部品調達難により来期へ販売延伸。
- ✓ 新規ソフト開発案件で失敗コストが発生。
- ✓ 為替変動（円安）によるコスト増発生。



営業利益の変動（対前回予想）

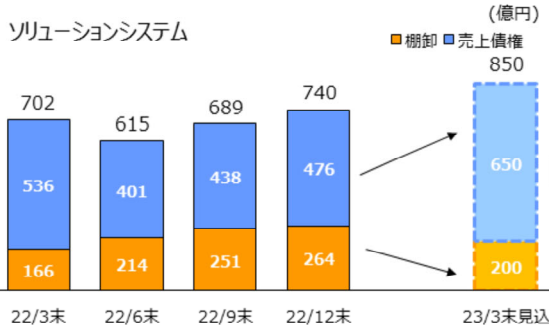


- 12ページは前回予想からの営業利益の変動チャートです。ページの右上に期初、説明した同じエレベーターチャートを付けていますが、この続きにあたる表となります。
- 期初、サプライチェーン影響は120億円とご説明していましたが、残念ながらさらに80億円悪化。これを価格適正化と固定費の改善の積み上げで打ち返しましたが、逆に新たに発生したソフト開発案件の失敗コストと為替影響もあり、減益となりました。
- ソフト開発案件の失敗コストは、新たなDX領域への挑戦の中で発生したものでありますが、その真因は、もともと問題意識を持っております環境変化への対応力の大きな甘さと捉えています。
- 今後成長への舵切を実現していくためにも、事業部門の戦略実行力の強化は言うに及ばずですが、品質、ソフト、工事といった横串機能、これらの統括機能を一段幅広に集約して、OKIの総合力全体で勝負するという体制を作っていきます。

通期業績予想 運転資本-売上債権・棚卸

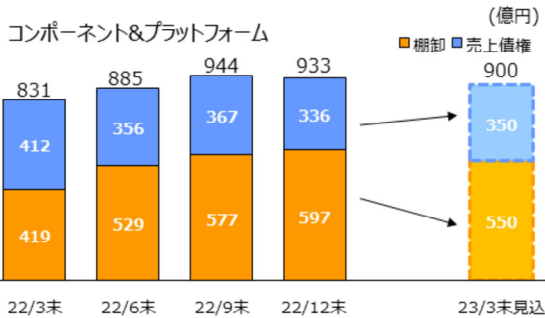
22年度は運転資本増加するものの、23年度上期改善見通し。

ソリューションシステム



・22年度4Q売上 640億～670億の見込
(前年同期比約90～110億増)、
23年度1Q回収予定

コンポーネント&プラットフォーム



・22年度3Qで棚卸はピークアウト。
23/1Q売上は対前年同期比で約60億増
の見込

- 13ページは運転資本です。
- 残念ながら、現時点では部品、製品在庫ともに膨らんでいますが、棚卸については、22年11月でピークアウトしたと考えています。
- 調達影響を大きく受けている自動機事業では、一部の主要半導体の不足により製品在庫が大きく膨らんでいますが、今期力を入れて実行してきた設計変更の効果によって、23年度上期から出荷可能となり、棚卸の削減スピードが23年以降アップしていきます。できれば22年度に何とか出荷できないかと検討してきましたが、残念ながら、お客様の納期、その他諸所の事情もあり、23年度での出荷になりました。
- 一方で、3月末に向けて棚卸は順次減る傾向にありますが、上段の表のとおり、毎年4QはOKIとしても、特にソリューションシステムを中心に売上のピークを迎え、棚卸は減りますが、売上債権が増加する見込みです。
- 結果、運転資本全体としては12月並みの水準にとどまる見込みですが、ソリューションシステムの売掛金の回収サイクルは短期であり、23年度1Qで回収見込みです。
- 以上のように23年度に棚卸は減少し、それに伴って現在膨らんでいる借入金も適正規模に収斂させていく所存です。
- 最後に、率直に申し上げて2022年度は大変厳しい決算ですし、特に第3四半期は税金等の関係もあり、より数字が厳しく見える決算と認識しております。サプライチェーン影

響の対策を打つことで何とか22年度中に刈り取り、全体としての事業計画を達成するという強い思いで進めてまいりましたが、対策の効果が本格的に数字に表れるのは、残念ながら23年度となる見込みであります。

- 22年度としての数字は厳しいものの、本日まで説明のとおり、会社全体として見れば、21年度を底に、ボトムアウトはしっかりと確実に進行している認識です。申し上げるまでもなく、第4四半期はOKIにとってのピークの時期であり、引き続きトップラインの積み上げ、在庫の出荷を確実に履行し、ボトムアウトの足取りをよりしっかりお見せできるように注力してまいります。
- 皆様の引き続きのご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。第3四半期決算のご説明とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(補足) セグメント別売上高/営業利益 (四半期別推移)

(単位: 億円)

売上高	21年度					22年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q
ソリューションシステム	339	350	387	550	1,626	361	384	447
コンポーネント&プラットフォーム	459	448	478	505	1,890	419	461	491
その他	1	1	1	1	4	1	1	2
合計	799	799	866	1,057	3,521	781	847	938

営業利益	21年度					22年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q
ソリューションシステム	△1	△1	17	80	95	△12	3	12
コンポーネント&プラットフォーム	△15	4	45	1	35	△8	1	△4
その他	1	0	1	1	3	1	1	2
消去・本社費	△14	△17	△21	△23	△75	△11	△15	△17
合計	△29	△13	41	59	59	△30	△10	△8

(補足) 各事業の主な製品およびサービス

ソリューションシステム

- **パブリックソリューション**
 - 道路 (ETC/VICS)、航空管制、防災、消防
 - 中央官庁業務システム、政府統計システム
 - 防衛システム (水中音響/情報)
 - 航空機器
 - インフラモニタリング
- **エンタープライズソリューション**
 - キャリアネットワーク、映像配信、5G・ローカル5G
 - 金融営業店システム、事務集中システム
 - 鉄道発券システム、空港チェックインシステム
 - 製造システム (ERP/IoT)
- **DXプラットフォーム(プロダクト/サービス)**
 - AIエッジコンピューター、センサー、IoT NW
 - PBX、ビジネスホン、コンタクトセンター
 - クラウドサービス
- **工事・保守サービス**

コンポーネント&プラットフォーム

- **コンポーネント**
 - ATM、現金処理機
 - 営業店端末、予約発券端末、チェックイン端末
 - ATM監視・運用サービス
 - LEDプリンター
 - 大判インクジェットプリンター
 - ドットインパクトプリンター
- **モノづくりプラットフォーム**
 - 設計・生産受託サービス
 - プリント配線基板

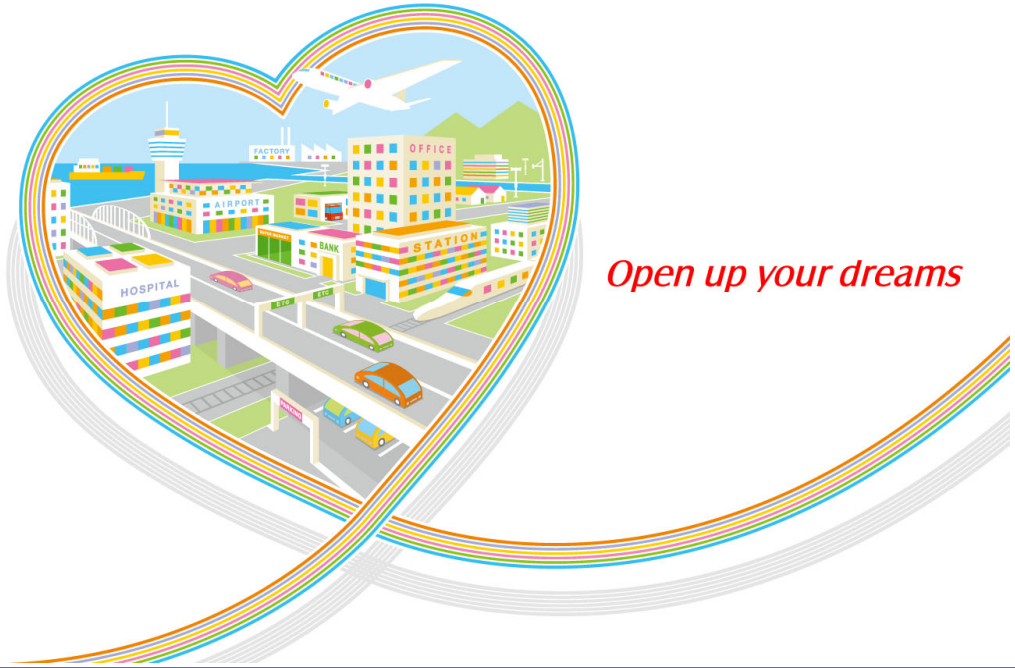
注意事項

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。

また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。



Open up your dreams